

いきなり道路建設計画 強引なやり方に住民反発

北区は、いきなり埼京線沿線に「主要生活道路」として、幅6メートルほどの道路建設構想を示してきた。赤点線部分がそれだ。

「特区」とか「特定」の名の下に強引な道路建設計画。住民は、怒っています。これは「花川区長の暴走」だ、「この道路計画は、埼京線の高架化を前提にしたものだ」という指摘もされています。

自民党や公明党が、「立体化」の名の下に高架化のために動き出していますが、今回の北区の動きは、「最悪の選択」に近いよ乗り出してきたもの、とも言えます。十条のまちづくりにとって重大事です。



急告 1月15日 (木)
午後6時30分から
まちづくり問題勉強会
上十条ふれあい館1階和室

上図の説明を主にした「緊急の勉強会」を開きます。このままでは、「知らない間」に立ち退きを迫られることになりかねません。北区の様子方は本当に乱暴です。説明は八百川孝区議があたります。どうぞお出かけください。参加無料

●日本共産党 野口まさとの「明るい街」から紹介。

●1月5日、北区賀詞交換会が北とぴあ会場にて開催され、池内さおり衆院議員も壇上から紹介されました。●区長の新年のあいさつでは、次期区長選への出馬表明と受けとめられる内容も示されました。

●まちづくりや長生き一番を強調する区長ですが、強引なまちづくり手法や、介護保険運営協議会議事録の改ざんなどが、大きな問題となってきています。※昨年の4定代表候補の本田議員が質していました。

朝日新聞の「拘束介護」議事録削除 東京・北区協議会委員に無断で

「拘束介護」が横行していた東京都北区の高齢者用マンションについて、2012年度に北区の介護保険運営協議会で問題を指摘されてきたのに、関連の発言を北区が議事録から削除していたことがわかった。北区は削除したことが「不適切だった」と認め、削除部分を議事録に復活させ、26

拘束介護問題

東京都北区の「シニアマンション」3棟で、約130人の入居者がベッドに体を固定されたり、外から鍵をかけられたりするなど、拘束状態にあったことが朝日新聞の調べで明らかになった。提携する医療法人が訪問介護サービスを提供しているが、訪問時以外には、徘徊(はいかい)や転落を防ぐためとして、拘束していた。

日に区のホームページに再掲した。

12年5月の協議会には、地元の有識者など21人のほか、北区の介護保険課長などが事務局として出席した。予定の議題を終えたところで、委員の一人が問題のマンションを取り上げ、「実態を区としてどの程度認識しているのか」と質問。回答がなかったため、委員は「実態を調べて回答願えば結構です」と話した。

13年2月の協議会でも、予定の議題を終えた後に同じ委員が改めて問うと、介護保険課長は問題のマンションについて、有料老人ホームとして届け出ていない、「調査することができない」と答へた。両会合でのいずれのやり取りも、23年9月後に公開された議事録からは削除されていた。

この委員は「北区に調査を求めていたが、何も変わらなかったため、質問した」と話す。公開前に委員に配られた「議事録案」には一連のやりとりが記録されていたので公開を了承したが、その後削除されたことは知らなかったという。

朝日新聞の指摘を受け、北区が今月、当時の介護保険課長だった元職員に削除した理由を聞いたところ「議題に関係ない」と思っていた」と話したという。現職の介護保険課長は「議題に関係あるかどうか判断するのは協議会であり、事務局の独断で削除したのはいくらも不適切だった」と話し、次回の協議会で謝罪する意向だ。

（沢伸也、風間直樹、丸山ひかり）
デジタル版に議事録の削除部分